

がん・生殖ナビゲーター看護師（OFNN）の教育プログラムによる心理支援強化を目指した研究

研究分担者 渡邊知映 昭和大学保健医療学部 教授

がん・生殖医療における心理支援を強化することに寄与する人材育成として、がん・生殖ナビゲーター看護師（OFNN）の教育プログラムを開発し、その有効性について検証した。教育プログラムは全18項目の教材をオンライン受講後、WEBによる事例検討会を行った。参加者114名において、知識と実践への自己効力感の向上に長期的な教育効果があることが明らかになった。今後は、がん・生殖医療において意思決定支援に携わる人材育成と質の向上が求められる。

#### A. 研究目的

がん・生殖医療における心理支援を強化することに寄与する人材育成として、がん・生殖ナビゲーター看護師（OFNN）の教育プログラムを開発し、その有効性について検証することを目的とした。

#### B. 研究方法

教育プログラムは2部構成とした。まず、がん・生殖医療の基礎講座8項目および各がん種と妊孕性温存療法の適応8項目のe-learning教材とがん・生殖医療の意思決定の場面のロールプレイ教材を作成した。全18項目の教材をオンライン受講後、WEBによる事例検討会を行った。受講対象を3年以上のがん医療・生殖医療に従事経験を有する看護職として、教育介入を行う前・直後・3か月後の3時点でのがん・生殖医療に関する知識・態度・実践の変化について評価を行うことで有効性について検証した。（倫理面への配慮）東京医科大学倫理委員会での承認を得た（T2021-0300）。

#### C. 研究結果

137名（がん医療側90名、生殖医療47名）が受講し、3回の知識確認テストまで修了した114名に対して受講証を発行した。e-learning教材およびWEB事例検討会の有用性については、いずれもと

ても、まあ役に立つとの回答が97.9%と高く、満足度の高い結果であった。最終的に受講証を発行した114名において、介入前後での教育効果を検証したところ、がん・生殖医療の知識を問う平均点はpre24.5点、直後31.4点、3か月後30.6点（ $p \leq 0.001$ ）に向上した。さらに、がん・生殖医療を実践することへの自己効力感もすべての項目について、教育介入前に比べて、介入後は有意に上昇し、その効果は3か月後も維持されていた（ $p \leq 0.001$ ）。がん・生殖それぞれの専門分野における差は認められなかった。

#### D. 考察

がん・生殖医療にかかわる看護師を対象とした教育介入については、知識・実践への自己効力感に長期的な教育効果があることが明らかになった。今後は、がん・生殖医療において意思決定支援に携わる人材育成と質の向上が求められる。

#### E. 結論

本プログラムは、がん・生殖医療における看護職に対する教育効果が検証され、人材育成に有効であることが示唆された。

#### F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記入

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし